風を活用 日よけに工夫

涼しく暮らす ―下

夏の日中（午後2時ごろ）の家庭の消費電力は、エアコンが全世帯平均で53％を占めるとされる。エアコンの利用を抑えたいが、暑さを我慢し過ぎると「節電熱中症」の恐れもある。涼しい住まい空間を得るには、扇風機と日よけの活用がカギになりそうだ。

＊

東京・秋葉原の家電量販店では、扇風機の売り場で「節電需要のため品切れ」と書かれた札が目立つ。週末には夫婦連れなどが次々と訪れ、店員に「いつ入荷するのか」「安いのと高いのとどこが違うのか」と尋ねていた。エアコンに押されてきた扇風機だが、節電の〝追い風〟が吹いている。

扇風機は多機能化が進んでいる。リング状の枠から空気を出し、気流を増幅して風を起こす「羽根のない扇風機」が人気のほか、温

売り場にはさまざまな暑さ対策のグッズが並ぶ。左上はアルミコーティングしたすだれ＝東京都渋谷区の東急ハンズ新宿店で

■節電対策メニュー（経産省のまとめから）

エアコン（695ﾜｯﾄ）　室温28度を心がける。すだれやよしずなどで窓からの日差しを和らげる。無理のない範囲でエアコンを消して、扇風機を使う

冷蔵庫（207ﾜｯﾄ）　設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らす。詰め込まないようにする

照明（68ﾜｯﾄ）　日中は照明を消し、夜間も照明をできるだけ減らす

テレビ（65ﾜｯﾄ）　省エネモードに設定するとともに、画面の輝度を下げる。必要な時以外は消す

温水洗浄便座（7ﾜｯﾄ）　便座保温や温水のオフ機能、タイマー節電機能があれば利用する。なければコンセントからプラグを抜く

ジャー炊飯器（25ﾜｯﾄ）　早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊く。（保温でなく）冷蔵庫に保存する

待機電力（34ﾜｯﾄ）　リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切る。長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜く

※各家電のワット数は、全在宅世帯の平均消費電力（夏期最大電力需要日の午後2時ごろを想定）

エアコン抑え、扇風機併用 ■ 窓用遮熱スプレーも

扇風機は多機能化が進んでいる。リング状の枠から空気を出し、気流を増幅して風を起こす「羽根のない扇風機」が人気のほか、温度センサーを搭載し全自動で風量を変える機種も注目を集める。肌に直接風を当てるだけでなく、部屋の空気を循環させる「サーキュレーター」としての機能が強調されているのも特徴だ。

経済産業省は5月、「家庭の節電対策メニュー」を発表し、エアコンの節電策として①室温（設定温度）28度を心がける②すだれ、よしずなどで窓からの日差しを和らげる③無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使う――の3点を呼びかけた。また、「除湿」運転や頻繁なオンオフは電力の増加につながるとして、注意喚起している。

「東芝ホームテクノ」（本社・新潟県加茂市）の家電事業統括部、辻村周一さんは「風を浴びることで体感温度が2～3度下がるとされる」としながらも、「扇風機は室温を変えることはできない。単独で扇風機を使うよりも、エアコンとうまく併用する方が効率的。エアコン100％依存をいかに軽減するかがポイント」と話す。

寝苦しい夜、辻村さんが勧めるエアコンと扇風機の併用法は、①エアコンのタイマーが切れる1～2時間後に、扇風機のタイマーが切れるように設定する②朝方の急激な温度上昇を避けるため、部屋が暑くなるタイミングで扇風機だけスイッチが入る設定にする――の2点。夜間にエアコンをある程度稼働させた後は、扇風機だけで快適に眠りに入ることができる。また、朝は室温がまだ低く抑えられており、扇風機で体感温度を下げるだけで、寝起きの暑苦しさを避けられる。停止と稼働を同時にタイマー設定できる扇風機なら、①と②がともにできる。

経産省が示す「節電効果算出根拠」によると、設定温度を1度上げると、約10％の節電効果がある。エアコンの設定温度を2度上げて、扇風機で体感温度を2度下げた場合、消費電力はどう変わるだろうか。エアコン消費電力を695ﾜｯﾄ（全在宅世帯の平均）として計算すると、2度下げれば139ﾜｯﾄ軽減でき、556ﾜｯﾄに。扇風機の34ﾜｯﾄと併用しても計590ﾜｯﾄ。約15％の削減となる。

お年寄りや乳幼児は暑い寒いを感じたり、体温を調整する能力が低く、猛暑の際にエアコンを止めると命にかかわりかねない。経産省が設置する相談窓口「節電ダイヤル」の担当者は「完全にエアコンを止めるということではなく、他の暑さ対策との併用で節電する方法もあるとお伝えしている」と話している。

＊

涼しい住まい空間を得るためには、部屋に入る日射熱を防ぐ必要があり、マンションやアパートの住民などにも手軽なアイテムが多く市販されている。

東急ハンズ新宿店では、通常のすだれ、よしずと並んで、表面をアルミコーティングした洋風すだれも販売。遮熱率や紫外線カット率の高さをうたい、3000円前後の手ごろさもあって、売れ行きは好調。窓の外掛け用フックと併せて買い求められることが多い。

遮熱効果が高いとされるレースカーテンやカーテン裏地も並び、農業用の網「寒冷紗（かんれいしゃ）」も、日よけ用に買い求める人がいるという。

5階フロア担当の高松弘行さんは「通常は暑くならないと売れないものが、今年は節電を言い始めた5月くらいから売り上げが伸びている」と話す。別のフロアでは、窓ガラスに内側から張る遮熱フィルムを販売し、透明度が高い新商品が好まれている。窓に吹き付けると遮熱効果があるスプレーは、1カ月ほど効果が続くとされる。

ヒートアイランド現象に見舞われる都市部では、高層ビルが風を遮る問題が指摘され、緑化の推進が求められてきた。今回、ゴーヤやヘチマなどを植栽する「緑のカーテン」が広がるなど、節電対策が住まいと緑の環境を考える機会ともなっている。

「自分のためのエコロジー」などの著書がある住環境プロデューサー、甲斐徹郎さんは「（エアコンなどの）機械を組み合わせるだけでは、物質的なものに囲まれた生活空間が助長されるだけで、快適とはいえない。単に28度の家で暮らしているだけに過ぎない」とし、「家の外の環境を大切にすると、家が涼しくなりやすい。樹木などに囲まれている家が増えれば、街全体の快適性が上がる。ライフスタイルそのものを見直すことにつながるはずだ」と話している。

【立上修、写真も】